

家庭教育通信

小学校高学年期のこどもたち

令和4年5月11日発行

家庭で口数が減り、親の口出しを嫌がります

小学校高学年期に入ると、本格的に思春期の入り口になってきます。今までのように無邪気に身の回りの話をしてくれなくなり、親としてはこどもの様子がわかりづらくなることに不安を感じることも多いでしょう。しかし一般的には、こどもたちは自立の準備として親と距離を置こうとする時期になります。

親への「自立と依存」の両面感情

親に心理的に依存している状態から、自立に向けて一歩踏み出します。口数が減り、そっけない返事ばかり返ってくるかと思えば、まとわりついて話を聞いてほしいがたりします。自分の世界について、親からの口出しに反発したり、秘密も持つようになります。親よりも友だちを優先したくなってきました。

家庭でのポイント

①基本は見守りで

そっけない返事しか返ってこなくても、自分で解決しようとしているのかもしれません。それも大切な自立への一歩です。いつもと明らかに様子が違うということでなければ、根掘り葉掘り聞かないでそっとしておくのもあります。

②こどもが話したそうなら受けとめて聞く

まだ甘えたいこともある時期です。用事があるときにも自分から寄ってくるでしょう。話を聞くときは短い時間でもいいので、しっかりこどもに向き合ってあげてください。また、アドバイスよりも聞くことに徹した方がよいこともあります。こどもは「自分は受け入れられる場所がある」と確認して、安心してまた外の世界に向かっていきます。

③目でもしっかり様子を見る

口数が少なく、心の中の複雑な気持ちを表現するだけの言葉の力もまだ未熟なこの時期だからこそ、様子の見守りも大切です。顔色や表情、態度など大きな変化があったら、すぐに気づけると安心ですね。

④マイナスな気持ちもそのまま受け取る

マイナスなことを言われるとすぐに励ましたくなるかもしれませんが、でもその前にその気持ちを表現したい、わかってほしい気持ちもこどもにはあります。「大変だったね」などの一言がもらえると、その後も自分からずっと話しやすくなります。

地域教育課社会教育担当
TEL (3647) 9676

家庭教育通信

小学校高学年期のこどもたち

令和4年7月11日発行

いっこうに自分から勉強しようとしません

こどもが小学校高学年になってくると、自分から勉強することを親はつい期待してしまいますよね。なかなか勉強しない不安から叱り続けていたら、お互いにストレスになり疲れてしまったり、こども本人は勉強から遠ざかってしまったり。こどもは元来好奇心のかたまりです。さまざまなことに興味をもち、学ぶ意欲を生まれながらに持っています。自分なりの勉強スタイルを見つけるサポートをしてあげられたらいいですね。

勉強しない理由と対策

①勉強がわからない

学校の授業の内容を理解できていなかったり、難しいと感じているのかもしれません。わからないのに「勉強しなさい」と言われたら、嫌になってしまいそうですね。

まず、こどもの理解度を確認することが大事です。できれば隣でサポートしてあげながら、わかるレベルまで戻って「できた！」という体験を積み重ねていきましょう。

②勉強に苦手意識がある

「授業中に答えられなくて恥ずかしかった」「友達と点数を比べられバカにされた」等、苦手意識につながるがあったのかもしれません。勉強を見てあげながら、その原因を特定して払拭していくことが大切です。

③親に勉強を強制される

学校から帰ると「勉強しなさい」と言われ続けて勉強したくなるこどもはなかなかいないですね。放課後はやりたいこともたくさんあります。

こども自身に勉強する時間や量を決めさせてみましょう。答えはできるだけ受け入れてあげてください。自分で決めたことができると自信につながります。繰り返すと時間や量の調整もできるようになるでしょう。お楽しみに後で遊びの時間を入れておくと、勉強がはかどったりもします。

④集中力が続かない

机にむかっても、気が散ったり、眠くなったりということもあります。こどもが集中できる時間は、大人よりもずっと短く、高学年でも最大30分と言われています。まずは15分単位から始めて繰り返す、こまめに休憩をとる、最初は簡単な問題で脳にやる気を起こさせる、少しだけ難しい問題をやる等、勉強を続けやすくなる工夫をしてみましょう。

「ほめること」も忘れずに。

地域教育課社会教育担当
TEL (3647) 9676

家庭教育通信

小学校高学年期のこどもたち

令和4年9月11日発行

家庭での性教育はどうすればいいのでしょうか

こどもたちは、学校や友達、メディアなど、様々なものを通して性に触れます。「包括的な性教育」には、個の大切さ、同意の必要性、プライベートゾーンなど、生殖だけでなく、社会や文化、感情や人間関係なども含まれています。家庭ではどんなことができるのでしょうか。

○正しい知識を伝える

こどもが自分の体や性的な機能について、年齢に応じた興味を持つのは自然なことです。タブー視をせずに、こどもが間違った知識を得る前に、科学的根拠に基づいた正しい知識を伝えることが大切です。親自身も、性に対する価値観を振り返ったり、正しい知識を得ておくことが重要ですね。こどもに説明する言葉を想定しておくことも役に立ちます。

○話をするタイミングは？

こどもから質問があったときや日常でのきっかけを見つけて伝えると自然に伝えやすいです。学校の授業について聞いてみたり、気になるニュースについて話し合ってみるのもいいと思います。生物の受精や移動教室前の生理についての話などは、いいきっかけになるかもしれません。質問されてうまく答えられなかったときは、「大切なことだからちゃんと調べてから伝えるね」といったん待ってもらって後日伝えてもいいでしょう。一度に完璧にやろうとしなくて大丈夫です。

○性教育につながる人間関係

人が嫌がるようなことはしない、相手の気持ちを確認する、自分が嫌なことをはっきり伝えるなど、性教育にも関係する人間関係についてしっかり伝えることは大切です。親から子へのスキンシップも、こどもが嫌がっていたらやめるようにしないと、そういうものと思いきこんでしまう可能性があります。

○思春期以降は同性同士でも

高学年や思春期以降になると、性について異性の親子で話すことに抵抗を感じることもあられるでしょう。そんなときは、同性同士で話すほうが自然かもしれません。面と向かって話しにくいときは、本や動画をシェアして「困ったとき参考になるよ」「いつでも話を聞くよ」という姿勢を見せておくこともサポートにつながります。否定や禁止ではなく、性を「大切なもの」「価値あるもの」とあたたかく肯定的に伝えてあげたいですね。

地域教育課社会教育担当
TEL（3647）9676

家庭教育通信

小学校高学年期のこどもたち

令和4年11月21日発行

どうも友だちから無視をされているようです

自分のこどもが「無視」の対象になってしまったとき、親としてはとても胸が痛く不安になります。そんなとき、どのようにこどもをサポートしてあげられるでしょうか。

○無視の特徴

嫌なことを言われた・された、という明確な原因で始まることもあれば、「何となく気に入らない」など、はっきりした理由もなく始まることもあります。後者は解決の糸口が掴みにくいといわれ、ターゲットは大抵一人で、コロコロ変わることもよくあります。

○しっかりと様子を見る

無視されていることについて、「心配をかけたくない」「恥ずかしい」といった気持ちから、こどもが親に話しづらいこともあります。SOSに早く気づいてあげるには、表情や雰囲気、食欲、友だちの話題などが今までと違ってないか、毎日こどもの様子をしっかりと見ることが大切です。

○話を受けとめて共感する

こどもが話してくれるときは、まずはじっくり話を聞いてあげ、「辛いよね」と共感の言葉を返してあげましょう。話すことで気持ちが楽になったり、考えていることが整理できて、「どうしたいのか」「どうしたらいいのか」、こども自身で気づくこともあります。こどもの気持ちを第一に考えて尊重し、話を聞くことが大切です。親が「相手の子に文句を言う」と大騒ぎしたり、「あなたも悪かったんじゃないの」と否定しないでいてください。一緒に考える姿勢で「どうしたらいいのかな？」と、これからの明るい話をできたらいいですね。

○家を安心できる場所に

「お父さん、お母さんはどんなことがあってもあなたの味方だ」ということを伝えて、安心させてあげましょう。こどもが学校で、自分なりの対処でがんばってみるときの安全基地になるでしょう。

○学校の先生に伝えるとき

こどもが相談を希望していたり、いじめが深刻なときは、早めに担任の先生に話して状況を改善してもらいましょう。気にかけてもらい、周りの子たちにさりげなく声をかけてもらうだけでも、状況が良くなることがあります。

地域教育課社会教育担当
TEL (3647) 9676

家庭教育通信

小学校高学年期のこどもたち

令和5年1月11日発行

ネットトラブルが心配です

スマートフォン、ゲーム機などの普及によって、インターネットはますます身近なものになっています。最近はこどもたちも自分のスマートフォンを持つようになりました。それに伴い、こどもたちがネットトラブルに巻き込まれるケースも増えています。

インターネットでの危険とは

① 書き込み等での誹謗中傷

SNSなどで他人の悪口を書き込んだり、ネット上でのいじめがあったりします。被害にあったこどもが不登校になることもあります。

② ゲームサイトでの課金

無料のオンラインゲームで遊んでいるうちに有料のアイテムに気づかず購入してしまうことがあります。保護者のクレジットカードやキャリア決済をこどもが無断で設定し、後から高額な請求をされるケースもあります。

③ ネットを通じた誘い出し

最近はSNSやゲームサイトを通じて見知らぬ人と簡単につながりを持つことができます。ネットで知り合った人を信用し、事件や犯罪に巻き込まれることもあります。

④ 個人情報の流出

SNSなどに安易に個人情報を載せたために、自分の名前や住所、メールアドレス、顔などが他人に知られてしまい、勝手に使われたり、嫌がらせを受けたりするケースがあります。友人の写真を許可なく投稿するとトラブルになる可能性もあります。

安心してインターネットを利用するために

① ペアレンタルコントロールの活用

こどものスマートフォン等の利用状況を保護者が把握したり、安全管理ができるサービスがあります。

② フィルタリングの利用

こどもがスマートフォン等を使うときに、危険なサイトにアクセスしないようにコントロールしてくれる機能です。

③ 家庭のルールづくり

こどもと一緒に、利用目的・利用場所・時間帯、ネット利用時のマナーなどを話して決めましょう。ルールを守れなかったときどうするかも一緒に決めるとよいですね。ルールは成長とともに見直していきます。トラブルになったときにはすぐに保護者に相談するよう、普段からこどもと話しておくことが大切です。

地域教育課社会教育担当
TEL (3647) 9676

家庭教育通信

小学校高学年期のこどもたち

令和5年3月11日発行

中学校入学に向けて

環境が大きく変わる中学校への入学は、楽しみと同時に不安を感じるお子さんも多いのではないのでしょうか。

小学校と中学校の違い

小学校は一般的にクラス担任が授業を受け持ちますが、中学では科目ごとに先生が変わります。行事や普段の生活で、自主性がより求められます。自分から発信しないと助けてもらえないこともあり、戸惑う子もいるかもしれません。先輩や後輩、友人など新しい人間関係で不安を感じる子もいるでしょう。入学前に少しでも不安が和らげられるよう準備できるといいですね。

中学校生活のイメージをもつ

中学校の様子を話してあげられるといいでしょう。親が自分の体験談も交えて話すのもいいですね。その際、大変だったことを強調すると不安をあおってしまいます。新しい仲間ができたことや達成感を味わえたこと、感動したことなど、前向きな内容を伝えてあげてください。

学習習慣を身につけておく

中学に入ってから定期テストもあり、日々の勉強がより大切になります。小学校の間に復習する習慣をつけておく、入学前の春休みに簡単なドリルをやっておくのもよいでしょう。長い時間でなくても、毎日決まった時間勉強することを習慣にしていきましょう。分からないところは、今のうちに整理してできるようにしておくとうれしいですね。

家を安心できる場所に

入学前後に限らず、お子さんが不安を話しやすい環境を作ってください。ゆったりした雰囲気があると、何となく話を切り出しやすいかもしれません。

また、この時期難しいのは親子の距離感です。こどもが求めているのに親が手を出し過ぎると必要な自立をはばみ、かといって放っておくとまだまだできないことも多くあります。親は近すぎず遠すぎず、こどもが自分で取り組めるよう見守りフォローしてあげましょう。「いつでも力になるよ」という姿勢を見せ続けることは、お子さんの大きな力になります。SNSについても親子でルールを決めておきましょう。

地域教育課社会教育担当
TEL (3647) 9676